

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：34525

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23328

研究課題名（和文）コンディヤックの教育思想研究 君主教育論と感覚論哲学をつなぐ試み

研究課題名（英文）A study of Condillac's educational thought : Monarchical education and Sensualism

研究代表者

中田 浩司 (NAKADA, HIROSHI)

関西福祉大学・教育学部・講師

研究者番号：90846362

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：コンディヤックの教育論である『パルマ公国王子のための教程』の研究を通して、その教育論が属する文芸ジャンル「君主の鑑」の研究、さらにその教育論と感覚論哲学の関係を解明するための研究を行った。具体的には、コンディヤックの教育論の大半を占める言語教育や修辞学教育、歴史教育に関する論文や教育方法と感覚論に関する論文を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、コンディヤックの教育に関する著作『パルマ公国王子のための教程』を正確に解釈し、その教育思想と感覚論哲学との関係を解明することを主たる目的としていた。本研究は、教育思想史の分野においてほとんど研究がなされてこなかったコンディヤックの教育思想研究の端緒となった点、また専門家の査読を経た論文を発表した点において学術的意義や社会的意義を有する。

研究成果の概要（英文）：Through the analysis of Condillac's educational theory and his educational work, *Cours d'etudes pour l'instruction du prince de Parme*, I clarified the relationship between his educational theory and his philosophy of sensualism. In addition, I demonstrated that his work belongs to the traditional western literary genre, *Mirrors for princes*. Specifically, I published several articles on his educational methods and sensualism, on language, rhetoric, and history education, which constitute the majority of Condillac's educational theory.

研究分野：教育学

キーワード：コンディヤック 18世紀フランス教育思想 『パルマ公国王子のための教程』 君主教育論 感覚論哲学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

コンディヤックは、1758年から1767年まで、ルイ15世の孫であり、イタリア・パルマ公国の王子であったフェルディナンド公の家庭教師として教育を行い、その成果を『パルマ公国王子のための教程』（以下『教程』）に記し、自らの教育論を展開した教育者としての側面がある。しかし、コンディヤックの『教程』については、その量的な多さと質的な多様性にも関わらず、日本では、ほとんど研究の対象とされてこなかった。また、フランスにおいても、先行研究は非常に少ないという状況にある。それゆえ申請者は、コンディヤックの研究の空白を埋めるために、その教育思想の研究を進めてきた。

申請者は、まず『教程』という書物が、理想の君主のあり方を論じた西洋の文芸ジャンルの一つである「君主の鑑」（*miroirs des princes*）という伝統の一環をなしているということ、「コンディヤックの教育思想『パルマ公国王子のための教程』から見る人間観」（『人間教育学研究』、第3号、61-71頁、2014年）において明らかにした。しかし、同時にコンディヤックの『教程』には、旧来の伝統的「君主の鑑」に必ずしも合致しない側面もあるということも指摘した。ここから次のような問いが生まれる。すなわちコンディヤックの教育論は、統治術や、君主としての道徳といった従来の君主教育論には包摂されない、むしろフランス革命を経て実現されていく市民社会の担い手としての主権者の教育という固有の原理と価値をも射程としていたのではないか。さらに、その教育論を読み解くことで、コンディヤックの教育論は、感覚論哲学を基盤として成立したのではないだろうか、という仮説にいたった。そこで、コンディヤックの教育論を解明し、コンディヤックの思想の諸相を包括的に検討することを課題とした。

2. 研究の目的

感覚論の礎を築いた哲学者として知られるコンディヤックの教育者としての側面を検討する本研究は、ややもすれば全く別の研究領域と思われがちな文学史、思想史などの領域を横断するものであり、他領域の研究者と意見を交わし、知見を深めることにより、専門分野にとらわれない、学際的な議論が可能になる。この点にこそ、本研究の主たる目的がある。さらに、本研究は、コンディヤック研究、18世紀啓蒙思想研究を活性化させるとともに、フランス教育史、教育思想史にこれまで欠落していた「コンディヤックの教育論」という独自の視点を提示できる。申請者がこれまで行ってきた研究成果をさらに発展、深化させる形で、あくまで実証的な資料文献の調査に立脚しながら、コンディヤックの教育論の解明を行う。

3. 研究の方法

本研究では、下記の三つの課題を設定し、これらを総合することで、コンディヤックの教育思想の包括的理解を試みた。

- a) 「君主の鑑」とコンディヤックの教育思想の関係について
- b) コンディヤック『教程』の研究—言語教育／修辞学教育について
- c) コンディヤック哲学の再検討と思考法教育の関連について

まず、本研究の基盤となる作業として、a)を行った。具体的には、「君主の鑑」に関連する文献資料を網羅的に調査、収集するとともに、各種図書館を利用して、現在までに刊行された「君主の鑑」に関連する著作、研究書を可能な限り閲覧、入手した。さらに、インターネットを活用し、当該分野の研究書や研究論文を探索し、精緻な読解を行った。そこから、「君主の鑑」というジャンルに関する文学史的研究を行った。さらに並行しながらb)を行った。そのさい、コンディヤックは、どのように「君主の鑑」の伝統を踏襲したかを検討した。そのうえで、コンディヤックの「君主の鑑」がいかにして私的な君主教育論の伝統から離れたか。また、フランス革命以後に実現されていく社会の担い手である主権者・市民の教育論としても適用可能な普遍性を持っているということを視野に入れることで、申請者の先行研究において十分に検討できなかった問題を発展させ「君主の鑑」およびコンディヤックの『教程』に対する詳細な理解が可能になった。さらには、『教程』の研究において、とくに修辞学や思考法に関する著作群を調査、分析に専念した。実際、『教程』には、『文法』(第1巻)、『書く技術』(第2巻)、『推論の技術』(第3巻)、『思考の技術』(第4巻)という著作群があり、これらは、コンディヤックの君主教育論の根幹をなしており、言語や修辞学の教育の諸相を明らかにすることはコンディヤックの教育論の全容を解明するために必要な課題であると認識するに至った。

以上の研究において得られた成果を踏まえて、最終的にc)コンディヤックの哲学の再検討を行った。コンディヤックの前期の哲学的著作『人間認識起源論』や『感覚論』、および後期の『論理学』を連続的に検討し、コンディヤックの感覚論哲学が、その教育論において、いかに反映されているかを実証的に検討することによって、コンディヤックの教育論研究と哲学研究の接合を行った。

4. 研究成果

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、予定していた海外での調査研究の計画を断念せざるを得なかったが、以下の点について、研究成果を世に問うことができた。

1) 「君主の鑑」とコンディヤックの教育思想の関係について

コンディヤックが「君主の鑑」という伝統的な文芸ジャンルから何をどのように踏襲したかを探究するとともに、17世紀から18世紀フランスにおける教育方法や教育のあり方を歴史的に概観し、同時にコンディヤックの教育観、教師のあり方、そして教育方法を分析した。主な研究成果は以下の通りである。

論文

- ① 「コンディヤックにおける歴史教育」、『宝塚医療大学紀要』、第7号、45-58頁、2021年3月
- ② 「コンディヤック『パルマ公国王子のための教程』における『方法』」、(『関西フランス語フランス文学』、第29号、3-14頁、2023年3月)

口頭発表

- ① 「コンディヤック『パルマ公国王子のための教程』における『方法』」、日本フランス語フランス文学会関西支部会、2022年11月

2) コンディヤック『教程』の研究—言語教育／修辞学教育について

コンディヤックの言語教育論は、どのような言語観に基づいて展開されてきたかを考察した。というのも文学史、教育史の観点からコンディヤックの言語教育論を考察した研究はほとんどなされておらず、コンディヤックの言語観とそれに基づいて展開される教育観に注目することによって、コンディヤックの言語教育思想の解明のみならず、より広く18世紀における言語教育研究に先鞭をつける研究となった。また、この研究を踏まえ、精密な言語使用能力を身につけさせること、そして言語の技術を獲得させること、それによって正しい思考の能力を獲得させ、それが真理の探究につながるという教育観がコンディヤックには見られることを明らかにした。研究成果は以下の通りである。

論文

- ①「コンディヤックの言語教育論」、『関西フランス語フランス文学』、第27号、27-37頁、2021年3月
- ②「コンディヤックの言語教育論—詩の役割と観念結合について」、『宝塚医療大学紀要』、第8号、13-23頁、2022年3月
- ③「コンディヤック『書く技術』における文体の教育」、『関西福祉大学紀要』、第27号、27-35頁、2024年3月

口頭発表

- ①「コンディヤックの言語教育論」、日本フランス語フランス文学会関西支部会、2020年11月
- ②「コンディヤックにおける修辞学教育」、第7回フランス近世の〈知脈〉研究会、2021年2月
- ③「コンディヤック『文法』における教育の問題について」、第8回フランス近世の〈知脈〉研究会、2021年9月
- ④「コンディヤック『書く技術』における文体の教育」、第9回フランス近世の〈知脈〉研究会、2023年2月

3) コンディヤックの哲学の再検討と思考法教育の関連について

『教程』の思考法の重要な著作である『推論する技術』を主たるコーパスとしながら、君主教育論における思考法のあり方とコンディヤックの認識論の関係性について考察した。以下の研究成果が挙げられる。

口頭発表

- ①「コンディヤック『推論する技術』における教育方法—君主教育論における思考術について—」、第10回フランス近世の〈知脈〉研究会、2024年2月

4) その他

著書

- ①アーロン・L ミラー著、石井 昌幸（訳）、坂元 正樹（訳）、志村 真幸（訳）、中田 浩司（訳）、中村 哲也（訳）、『日本の体罰』、共和国、2021年6月
- ②中田正浩、住本克彦、清水和久、長井勘治、藤田英治、森一弘、久田孝、中田律子、山口裕毅、中田浩司、『新しい視点から見た教職入門』、大学教育出版、2023年4月

論文

- ① Les châtiments corporels au Japon, Revue internationale d' éducation de Sèvres,

Numéro 81, pp. 55-62, 2019 年 9 月

②「フランス・アンシアンレジーム期における体罰について」、『宝塚医療大学紀要』、第 6 号、1-13 頁、2019 年 10 月

③「ジャン＝バティスト・ド・ラ・サールの体罰論」、『関西福祉大学紀要』、第 26 号、75-84 頁、2023 年 3 月

口頭発表

①「日本における体罰—その歴史と正当化の言説—」、2019 年度第 1 回宝塚医療大学研究発表会、2019 年 9 月

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 中田浩司 | 4. 巻 27 |
| 2. 論文標題 コンディヤック『書く技術』における 文体の教育 | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 関西福祉大学紀要 | 6. 最初と最後の頁 27-35 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 中田浩司 | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 ジャン＝パティスト・ド・ラ・サールの体罰論 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 関西福祉大学紀要 | 6. 最初と最後の頁 75-84 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 中田浩司 | 4. 巻 29 |
| 2. 論文標題 コンディヤック『パルマ公国王子のための教程』における「方法」 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 関西フランス語フランス文学 | 6. 最初と最後の頁 3-14 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 中田浩司 | 4. 巻 8 |
| 2. 論文標題 コンディヤックの言語教育論-詩の役割と観念結合について- | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 宝塚医療大学紀要 | 6. 最初と最後の頁 13-23 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 中田浩司 | 4. 巻 7 |
| 2. 論文標題 コンディヤックにおける歴史教育 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 宝塚医療大学紀要 | 6. 最初と最後の頁 45-58 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 中田浩司 | 4. 巻 27 |
| 2. 論文標題 コンディヤックの言語教育論 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 関西フランス語フランス文学 | 6. 最初と最後の頁 27-37 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 中田浩司 | 4. 巻 6 |
| 2. 論文標題 フランス・アンシアン・レジーム期における体罰について | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 宝塚医療大学紀要 | 6. 最初と最後の頁 1-13 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Hiroshi NAKADA | 4. 巻 81 |
| 2. 論文標題 Les chatiments corporels au Japon | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Revue internationale d'education de Sevre | 6. 最初と最後の頁 55-62 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/ries.8702 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 中田浩司 |
| 2. 発表標題 コンディヤック『推論する技術』における教育方法—君主教育論における思考術について— |
| 3. 学会等名 第10回フランス近世の知脈研究会 |
| 4. 発表年 2024年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 中田浩司 |
| 2. 発表標題 コンディヤック『パルマ公国王子のための教程』における「方法」 |
| 3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会 関西支部大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 中田浩司 |
| 2. 発表標題 コンディヤック『書く技術』における文体の教育 |
| 3. 学会等名 第9回フランス近世の知脈研究会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 中田浩司 |
| 2. 発表標題 「コンディヤック『文法』における教育の問題」 |
| 3. 学会等名 第8回フランス近世の知脈研究会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 中田浩司 |
| 2. 発表標題 コンディヤックの言語教育論 |
| 3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会関西支部会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 中田浩司 |
| 2. 発表標題 コンディヤックにおける修辞学教育 |
| 3. 学会等名 第7回「フランス近世の<知脈>」研究会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 中田浩司 |
| 2. 発表標題 日本における体罰－その歴史と正当化の言説－ |
| 3. 学会等名 2019年度第一回宝塚医療大学研究発表会 |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計2件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 中田正浩、住本克彦、清水和久、長井勲治、藤田英治、森一弘、久田孝、中田律子、山口裕毅、中田浩司 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 大学教育出版 | 5. 総ページ数 292 |
| 3. 書名 新しい視点から見た教職入門 第3版 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 アロン・L・ミラー、石井 昌幸、坂元 正樹、志村 真幸、中田浩司、中村哲也 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 共和国 | 5. 総ページ数 404 |
| 3. 書名 日本の体罰 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|